

項 目	内 容
<p>1. 北海道つべつまちづくり株式会社との官民連携事業</p>	<p>①事業概要 平成27年度からのまちなか再生に係る継続事業。平成31年3月に設立され、特産品開発・事業創出支援などを実施。令和元年度より町からの委託事業として、“ふるさと納税事務代行・拡大業務”や“移住・起業・空家利活用相談窓口等運營業務”、令和3年度途中より“地域おこし協力隊フォロー業務”を受託。</p> <p>②進捗状況</p> <p>(1) 組織・全体 4月14日からは、「乳製品等の加工品開発」を任務に1名の協力隊員が着任し、Café&deli Lukaで活動中。4月19日からは、「農業支援から農業従事者へ」を任務に1名の協力隊員が着任し、JAつべつで活動中。10月7日からは、「情報発信から地域活性化へ」を任務に1名の協力隊員が着任し、道東テレビで活動中。</p> <p>(2) 特産品開発 特産品“クマヤキサブレ”については、各店舗での取扱いのほか、ふるさと納税の返礼品に追加。 7月20日～8月31日まで北海道どさんこプラザ羽田空港店で開催されたオホーツク産品フェア、8月5日～7日には、札幌ドームで開催された大ほっかいどう祭にて、クマヤキサブレの販売・PRを行った。 令和4年度のクマヤキサブレ売上高：5,626,733円 ※前年度売上高：5,161,021円、前年比：109.02%</p> <p>(3) 飲食店事業 人材確保の問題や新型コロナウイルスによる影響で営業を停止していたが、7月より営業を再開。また、地域おこし協力隊員の1名が調理員として活動中。 令和4年度の売上高：1,809,915円</p> <p>(4) ふるさと納税事業 4月に“ふるさと納税事務代行・拡大業務”の委託契約を締結。年間寄附目標額を1億円とし、PRなど様々な工夫を凝らして事業を推進。活用サイトは、“ふるさとチョイス”“楽天ふるさと納税”“ANAのふるさと納税”“さとふる”“ふるなび”の5サイトを活用開始。 各サイト掲載情報の整理や新規返礼品を追加するなど整備を実施し、寄附額・寄附件数とも前年を上回りました。</p>

た。また、令和4年度も寄附目標額である1億円に届かず、令和4年度の寄附実績としては85,539,000円(4,852件)となった。※前年実績は67,011,000円(3,054件)

【前年比】寄附金額：127.6%、寄附件数：158.8%

(5) 移住定住サポートデスク

4月に“移住・起業・空家利活用相談窓口等運営業務”の委託契約を締結。移住窓口業務や空き家バンクの運営などの業務を実施。

町外在住者が所有している町内物件の利活用を図るため、税務係より発送した固定資産税の納付書に空き家バンクの紹介チラシ(一部、住宅系の事業紹介)を同封。チラシ同封の対象者は町内に物件を有する町外在住の個人400件程度。また、8月・3月広報つべつにて空き家バンク紹介チラシを配布。

インターネット(SNSやホームページ)、メールマガジン、チラシ、ポスター等各種媒体を活用して首都圏などへ継続した周知・PRを実施。

町と連携して3月4日～5日に札幌市で開催された「北海道移住ドラフト会議(参加選手36名、球団12球団)」に参加。同イベントで指名した選手とその他の選手を含めた計10名の選手が来町予定であり、4月15日から開催されるリノベーションウィークに参加予定。

【移住起業空家等利活用相談窓口対応実件数】

4月:	21件(うち新規8件)、	空き家バンク物件成約	なし
5月:	20件(うち新規14件)、	空き家バンク物件成約	1件
6月:	10件(うち新規6件)、	空き家バンク物件成約	1件(土地)
7月:	14件(うち新規9件)、	空き家バンク物件成約	1件
8月:	16件(うち新規14件)、	空き家バンク物件成約	3件
9月:	9件(うち新規8件)、	空き家バンク物件成約	1件
10月:	7件(うち新規6件)、	空き家バンク物件成約	2件
11月:	7件(うち新規6件)、	空き家バンク物件成約	なし
12月:	5件(うち新規4件)、	空き家バンク物件成約	1件
1月:	11件(うち新規9件)、	空き家バンク物件成約	2件
2月:	9件(うち新規8件)、	空き家バンク物件成約	2件
3月:	13件(うち新規12件)、	空き家バンク物件成約	2件
年間計:	142件(うち新規104件)、	空き家バンク物件成約	16件(うち土地1件)

	<p>(6) 地域おこし協力隊募集・フォロー業務</p> <p>4月に“地域おこし協力隊募集・フォロー業務”の委託契約を締結。町内の地域おこし協力隊員が生活や就労等における悩みなどを気軽に相談できる体制を整備するとともに、現役隊員やOB OG、行政職員、地域住民との交流機会を創り、人と町を知る中で、隊員の一人ひとりが町内の生活・就労環境に合わせたそれぞれのライフスタイルを構築し、津別町への定住促進を目的として実施。</p> <p>常設の相談窓口として地域生活における隊員本人への相談対応や、定期的に職場を訪問し指揮監督者との面談、隔月で隊員同士やOB OG・行政職員・地域住民等を含めた交流の機会を設けての情報交換などを行う。</p> <p>地域おこし協力隊の募集業務においては、募集サイトの新機能を活用する等効果的な募集活動を行う。</p>
<p>2. 求人求職マッチング促進事業</p>	<p>①事業概要</p> <p>移住定住及び空き家についてはワンストップ対応を通じての実績を積み上げてきたところだが、“住”と併せて“職”を紹介することで、より効果的となると考える中でツールが無かったことや、過去に実施した町内事業者へのヒアリング等を通じて人材不足や求人課題を問題視する事業者も複数あったことから、課題解決に向けた施策を実施する。</p> <p>②進捗状況</p> <p>《ワーク I Nツベツ（北海道津別町仕事情報発信サイト）》</p> <p>令和2年度事業としてサイト構築及び掲載企業への取材などを実施。令和3年6月21日にリリース。株式会社秋山工房が追加され、現在、27件の企業・事業者が掲載されている。</p>
<p>3. 大学生との連携によるまちづくり事業（北海道大学課外活動団体HALCCとの連携事業）</p>	<p>①事業概要</p> <p>平成28年に実施した地方創生まちづくりアイデアコンペで優秀賞を獲得したことをきっかけに北海道大学公共政策大学院とのつながりが生まれ、課外活動団体HALCCが設立された。</p> <p>同年度より活動を開始し、現在まで継続されており、コロナ禍であってもオンラインとオフラインを組み合わせ実施。</p> <p>令和4年度の財源として“いきいきふるさと推進事業助成金”1,260,000円を申請。</p> <p>新型コロナウイルスによる行動規制等が解除されたことで、HALCCの来町や高校生の札幌訪問が可能となり、従来どおりの活動を実施することができた。“いきいきふるさと推進事業助成金”の実績額については850,000円となった（対象事業費は1,702,326円）。</p> <p>②進捗状況</p> <p>(1) 高大連携事業</p>

・理想の津別を考える高校生総合戦略

～理想の津別町を考え、現状そして未来の津別町にあったらいいもの、あってほしいものを考え、津別の未来を「自分ごと（自分のこと）」とすることで、“調べる力” “考える力” “伝える力” を身に着けることを目的とする～

(2) 大学生独自事業

・クマヤキ免許証プロジェクト

津別町の認知度向上や関係人口増加、移住促進を目的として、津別町の特産品である「クマヤキ」のブランドを活かした事業提案があった。

【全体行程（実績）】

日 程	内 容	会場等	備 考
6月2日～3日	高大連携事業	津別高校	
6月29日 ～7月3日	高大連携事業	津別高校	
9月21日～22日	北大マルシェ準備	津別高校	
9月23日～24日	北大マルシェ出展	北海道大学	
10月13日～14日	高大連携事業	津別高校	
11月10日～11日	高大連携事業	津別高校	
12月 9日	活動成果報告会準備	津別高校、中央公民館	
12月10日	活動成果報告会	中央公民館	YouTube：道東テレビアカウントにて視聴可能
2月 9日～10日	次年度に向けた打合せ	津別高校	

4. 地域・文化交流+交通拠点整備で
まちなかの賑わい
創出プロジェクト
※大通地区コミュニ
ティ施設

①事業概要

津別町における地方創生を実現するために、地域資源を活用したコンパクトなまちづくりに取り組み、子育て世代や高齢者が安心してくらす環境整備と雇用の場を創出することによって、「まちなか地区」を再生し、現在の「まちなか地区」の人口を可能な限り維持していく。その中で、豊かな自然環境と地域資源を活かし、津別町で働き、暮らしたいと思える活力あるまちづくりや、自然豊かな生活環境を次世代へ継承するとともに、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すため、地方創生事業の一つである「まちなか再生事業」として本施設整備に取り組む。

地元特産品等の購入者等との交流拡大を通じて一層の観光振興と関係人口の拡大を図り、移住定住につなげる取組を継続的に推進していく。

交付金名称	事業	交付対象事業費	交付決定額	実績額
地方創生 拠点整備タイプ	<p>【施設名称】 津別町大通地区コミュニティ施設</p> <p>【整備内容】 コミュニティスペース、複合交通拠点、地場産品・特産品を販売する商業機能、図書館（交付対象外）等の建設工事を実施。</p>	315,295,000 円	157,647,000 円	157,647,000 円
地方創生 推進タイプ	<p>【事業名】 まちなかの賑わい創出に向けた地域・文化交流+交通拠点整備計画（効果促進・ソフト）</p> <p>【事業内容】 コミュニティスペース、複合交通拠点、地場産品・特産品を販売する商業機能、図書館（交付対象外）等の建設工事に係る効果促進事業として、整備施設の価値を最大限に活かすための備品等を整備する。</p>	97,023,410 円	48,382,000 円	48,382,000 円